

平成20年度までの実践から
“プロジェクトS”を通じた取り組みについて
 ~ESDを意識しないESDの実践



富山県立高岡南高等学校
 前進路指導部長 渡部 隆志

1

生徒数 (平成20年度)

学年	1年	2年	3年
文系 <small>(含: 人文学科コース)</small>	男 88 女 112	109	男 72 女 90
理系		53	89
学年合計	200	162	67
総合計	518 (男212 女306)		

2

校訓 心を蓄え以て道を窮む

教育目標
 真理を探究する態度を養い、高潔な品性を育て、健康で明朗な人間形成を目指す。

教育方針
ア 学力の向上
 基本的な生活習慣を確立するとともに主体的に学習する態度を育成し、一人一人の個性に即した学力の開発と伸長に努める。

イ 人格の陶冶
 教師と生徒、生徒相互間のふれあいを深め、思いやりと共生の心や自制心、正義感、協調性など、社会性の育成と人間として望ましい品性の陶冶に努める。また、異文化についても理解と交流を深めて広い国際的視野を養う。

ウ 心身の鍛錬
 たくましい体力と徳性を養い、確かな実践力と豊かな情操の育成に努める。

エ 校風の発揚
 先賢に学びながら、生徒と教師が手を携えて活気あふれる校風の発揚に努める。

3

渡部 個人的に……

進学校だが……

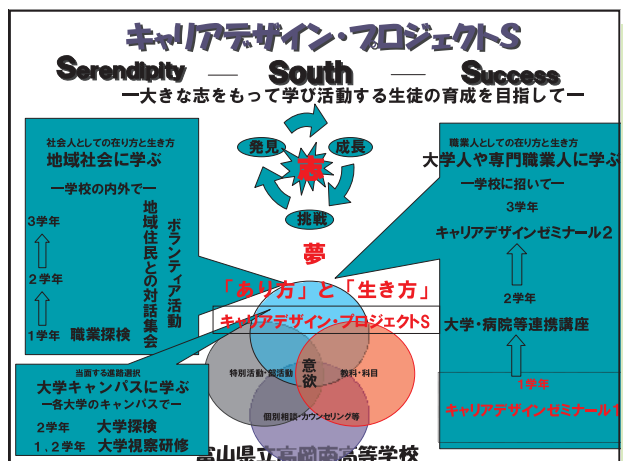
- 進路の、偏差値、点数だけでの振り分けへの疑問
- 受験勉強だけでいいのか？
- 「生徒を育てる」ってどういうこと？

4

学校課題
 自ら学ぶ意欲を育てる教育活動の推進

- (ア) キャリア教育の充実
- (イ) 進学校としての成長と飛躍
- (ウ) 生徒の主体性と自律性の陶冶
- (エ) 学校行事の精選と充実

5



6

キャリアデザイン・プロジェクトS

県内の高等教育機関や企業、同窓会、保護者、あるいは地域社会の支援を得て、生徒が実社会の姿や働くことの意味、あるいは学問をすることの意味に気づき、**将来への大きな志をもって意欲的に学び活動するように導く。**

また、結果として本校の進学校としての姿をより鮮明にし、教育活動全体の活性化を図る。

7

「キャリアデザインゼミナール」

多様な職業人の方との出会いを通して、自分自身を見つめ直し、

自分の「あり方」と「生き方」について深く考えることができるようにする



8

大学・病院等連携講座



- **新しい学問に触れることによって、学びへの興味関心や意欲を高めると同時に、当面する進路選択に大きな示唆を得ることができるようにする。**
- **仮想大学キャンパスに学びの場を求め、当面する進路について深く考えることができるようにする。**

9

キャリアデザインゼミナール2



- ライフプラン作成、個人テーマ設定
- テーマにそって、自分の生き方を追求したものをまとめ、最終的に文章化し、みんなの前で発信、発表する。

自分の「志」を確認 明確な「目標」「夢」にむかう「前向き」な姿勢

10

地域社会での体験活動

1. ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動
2. 自然に関わる体験活動
3. 勤労生産に関わる体験活動
4. 職場・職業・就業に関わる体験活動
5. 文化や芸術に関わる体験活動
6. 交流に関わる体験活動
7. その他これらが複合した体験活動

11

地域社会に学ぶ活動

学年等	体験活動の種類・内容	期間・日数・単位数
1年全員	職場・職業・就業にかかわる体験活動「職業探検」	5月～8月
2年全員	自然にかかわる体験活動「共同宿泊学習」	7月28日～30日 2泊3日 24時間
1・2年人文科学コース	交流に関わる体験活動 国際理解講座(1・2年) 1日校外学習(2年)	9月 11月
全学年	ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動	5月 7月 8月
	戸出地区クリーンボランティア活動	12月 1月 3月
全学年	交流に関わる体験活動	7月 12月 2月
	地域住民との直接対話 学校行事への地域の参加	
全学年	勤労生産に関わる体験活動	通年週1回
	校内資源ゴミ回収 学校行事プロデュース	

12

生徒会の公約から

地域に愛される学校をめざして

- 戸出地区クリーンボランティア活動
- 校内資源ゴミ回収
- 地域住民との直接対話
- ユニセフ募金活動
- 学校行事を地域に開放

13

ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動

- 戸出地区クリーンボランティア活動
 - 5月・・・本校参加者30人
 - 7月・・・本校参加者130人
(戸出西部小、戸出東部小、戸出中と連携)
 - 8月・・・本校参加者70人
 - 12月 1月 3月にも予定

14



15



16

勤労生産に関わる体験活動

- 校内資源ゴミ回収
- 学校行事(学校祭、体育大会等)のバックボーン体験、プロデュース体験を地域で

17

古紙回収



18



19

交流に関わる体験活動

「地域住民との対話集会」

参加者 戸出地区住民 約7名
 学校支援委員 7名
 本校生徒 約30名
 (生徒会執行部、HR役員)
 教職員 9名
 (管理職、特活部、生徒指導部など)

「学校行事を地域に開放」

20

地域との対話集会

- (1) 自己紹介
- (2) 学校紹介
- (3) 対話
 - 南高校・生徒の印象について
 - 戸出地区の印象について
 - 期待される南高校・生徒のあり方について
 - 南高校と戸出地区との発展的な連携について

21



22

地域へ広がる活動

- 生徒会・企画ボランティア部が実行
- 活動時間: 朝、昼、放課後
- 活動場所: 校門、戸出駅前、ココウエスト、郵便局、戸出支所→地域全体

23

結論

プロジェクトSのコンセプト

大きな「志」をもって
意欲的に学び活動する
力強い生徒の育成

プロジェクトSの成果

- ・自分の思い描く夢の実現に向けての積極的な態度
- ・世界をよりよく変えていこうという責任と力
- ・大きな視野から全体を見渡しての意志決定能力
- ・他への思いやり、尊敬、公正の育成 そしてそれを守る態度
- ・多様性を大切に、寛大な精神の滋養 etc

24